

第2章 記憶実験:記憶の二重貯蔵モデル － 対応のないt検定 －

2021.04.22 橋本貴充・荘島宏二郎

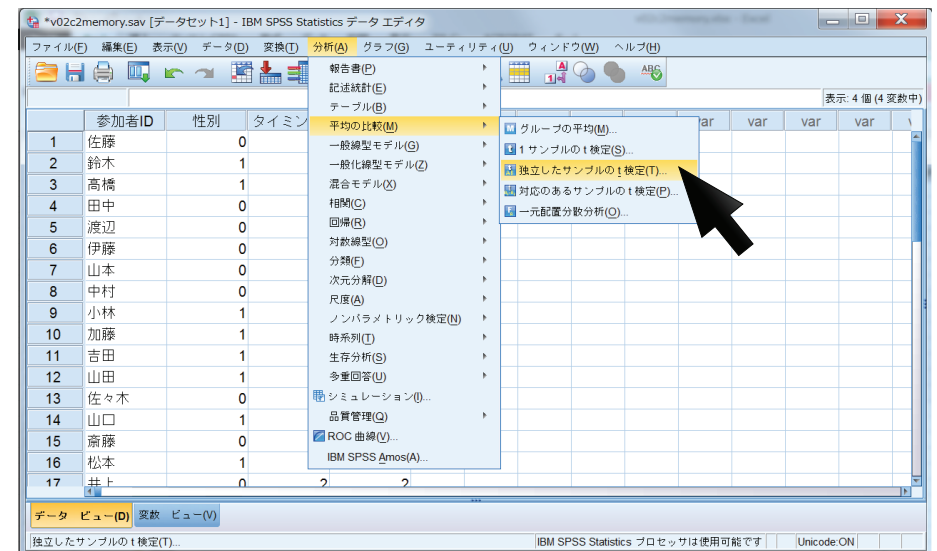
目的

- 対応の**ない**t検定の実行
- データはv02c2memory.savを使用
 - 変数「性別」を以下のように数値を与えています
 - 男=0
 - 女=1
 - 変数「タイミング」を以下のように数値を与えています
 - 遅延=1
 - 直後=2

本稿は 第1巻SPSS資料を 既知として 解説しています

対応の**ない**t検定 1/3

分析→平均の比較→**独立したサンプルのt検定**



対応のないt検定 2/3

①再生単語数を右のボックスに

②タイミングをグループ化変数に指定

③グループの定義

④OK

対応のないt検定 3/3

①1と自動入力(遅延グループのこと)

②2と自動入力(直後グループのこと)

③続行

④OK

画面が戻ると(1 2)となっている

結果(日本語対応してたら日本語出力)

Independent Samples Test

		Levene's Test for Equality of Variances		t-test for Equality of Means						
		F	Sig.	t	df	Sig. (2-tailed)	Mean Difference	Std. Error Difference	95% Confidence Interval of the Difference	
									Lower	Upper
再生単語数	Equal variances assumed	4.826	0.044	-2.818	15	0.013	-1.500	0.532	-2.635	-0.365
	Equal variances not assumed			-2.714	10.024	0.022	-1.500	0.553	-2.731	-0.269

等分散検定が有意でなかったら
対応のないt検定を報告
有意だったら
Welchの検定を報告

対応のないt検定の結果

Welchの検定の結果

対応のないt検定 効果量(ヘッジスのg)

独立サンプルの効果サイズ					
		Standardizer ^a	ポイント推定	95% 信頼区間	
				下限	上限
再生単語数	Cohen の d	1.095	-1.369	-2.420	-0.282
	Hedges の補正	1.154	-1.299	-2.297	-0.268
	Glass のデルタ	1.414	-1.061	-2.130	0.064

a. 効果サイズの推定に使用する分母。
Cohen の d は、プールされた標準偏差を使用します。
Hedges の補正は、プールされた標準偏差と補正係数を使用します。
Glass's のデルタは、制御グループのサンプル標準偏差を使用します。